

乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO.68

2020.1

トリプルネガティブ乳がんに対する 免疫チェックポイント阻害薬の登場

手術の対象とならない、または再発したトリプルネガティブ乳がんでPD-L1陽性の患者さんに対する新たな治療薬として、免疫チェックポイント阻害薬であるテセントリク(一般名:アテゾリズマブ)が登場しました。

*トリプルネガティブ乳がん: ホルモン受容体(エストロゲン受容体・プロゲステロン受容体)とHER2がいずれも発現していない乳がん



がん細胞を攻撃できる免疫療法とは?

がん細胞は、免疫細胞の働きにブレーキをかけるしくみの1つとして、がん細胞の表面に「PD-L1」という物質を出します。このPD-L1が、がん細胞を攻撃する免疫細胞の表面にある「PD-1」という物質に結合すると、免疫細胞の働きにブレーキがかかり、免疫細胞はがん細胞を攻撃できなくなってしまいます。

テセントリクはがん細胞の表面に出たPD-L1に結合することで、免疫細胞の働きにブレーキがかからないようにします。この結果、免疫細胞は攻撃力を取り戻し、がん細胞を再び攻撃することができるようになります。

テセントリクはトリプルネガティブ乳がんの中でPD-L1が一定量発現している患者さんに効きやすいことがわかっています。そのため、テセントリクの治療を始める前に、PD-L1が発現しているかどうかを摘出標本の組織を用いて検査を行い、PD-L1が発現していた場合に、テセントリクの適応となります。

副作用について

テセントリクは抗がん剤であるアブラキサン(一般名:ナブパクリタキセル)と組み合わせて点滴で投与します。

テセントリクは免疫細胞の攻撃力を取り戻してがん細胞を攻撃する治療法であるため、免疫細胞の働きが強くなりすぎることがあります。このことにより、がん細胞だけでなく、正常な組織に対しても攻撃を加えてしまい、体の一部に炎症などの症状が現れる場合があります。

免疫に関連した特に注意を要する副作用は、間質性肺疾患、肝機能障害・肝炎、大腸炎・下痢、1型糖尿病、甲状腺機能障害、副腎機能障害、下垂体機能障害、脳炎・髄膜炎、神経障害、重症筋無力症、皮膚障害、腎機能障害、心筋炎などがあります。

治療中は、自覚症状を常に確認し、もし何らかの異常を感じた場合には医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865

乳腺外科 西前 綾香

